

食品安全委員会の2月の運営について

1. 食品安全委員会の開催

第319回 2月4日(木)

- (1) カナダ及び米国における食肉処理施設の現地査察結果について、厚生労働省及び農林水産省から報告
- (2) BSE対策に関する調査結果について、厚生労働省から報告
- (3) 食品健康影響評価の要請
 - ・以下の案件についてリスク管理機関から説明

添加物(2品目)	1-ペンテン-3-オール、3-メチル-2-ブテノール
動物用医薬品(3品目)	豚増殖性腸炎乾燥生ワクチン(エンテリゾール イリアイティスTF、同FC、同HL、同HC)、牛クロストリジウム感染症5種混合(アジュバント加)トキシイド(“京都微研”キャトルウィン-CI5)の再審査、セフチオフルを有効成分とする牛及び豚の注射剤(エクセネル注)の再審査

- (4) 各専門調査会における審議結果についての報告
 - ・各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会(1品目)	エトプロホス
遺伝子組換え食品等専門調査会(1品目)	高オレイン酸含有ダイズ(DP-305423-1)

- (5) 食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価について
 - ・担当委員である長尾委員及び事務局から説明
 - ・「アルミニウム」については、まず情報収集から始めるものとして自ら評価の案件候補とすること、また、「トランス脂肪酸」について自ら評価案件候補とすることとの理解の下、これらについて、意見・情報の募集手続に入ることが了承され、その結果を踏まえて、最終的に自ら評価案件を決定することとなった
 - ・企画専門調査会から、情報収集や情報提供を行うように提案のあったカフェインについては、提案に従い、事務局で対応を進めることとなった
- (6) 企画専門調査会に当面調査審議を求める事項について、事務局から説明を行い、原案のとおり、企画専門調査会に対し調査審議を求めることとなった
- (7) 食品安全委員会の1月の運営について事務局から報告

第320回 2月18日(木)

(1) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明

農薬(3品目)	MCPA、グリホサート、ピリダベン
農薬及び動物用医薬品(1品目)	ジノテフラン
動物用医薬品(5品目)	トルフェナム酸、プロペタンホス、クロキサシリン、ジョサマイシン、チアムリン
動物用医薬品及び飼料添加物(1品目)	フラボフォスフォリポール
食品衛生法第11条第3項の規定に基づき、人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質 アスタキサンチン 外32品目	
新開発食品(3品目)	ピュアカム葉酸、ピュアカム葉酸MV、まめちから大豆ペプチドしょうゆ

(2) 各専門調査会における審議結果についての報告

- ・各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会(1品目)	イマザピックアンモニウム塩
農薬専門調査会及び動物用医薬品専門調査会(1品目)	スピノサド
動物用医薬品専門調査会(2品目)	アセトアミノフェン、アセトアミノフェンを有効成分とする豚の経口投与剤(アレンジャー10、アレンジャー30)
遺伝子組換え食品等専門調査会(1品目)	耐熱性 α -アミラーゼ産生トウモロコシ3272系統

(3) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

動物用医薬品(1品目)	セフトオフルを有効成分とする牛及び豚の注射剤(エクセネル注)の再審査
遺伝子組換え食品(1品目)	チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシBt11系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR162系統とトウモロコシ1507系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシGA21系統からなる組合せのすべての掛け合わせ品種(既に安全性評価が終了した4品種を除く。)

(4) 除草剤グリホサート耐性トウモロコシNK603系統、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMON810系統及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON863系統の90日間反復投与毒性試験で得られたデータの解析に係る見解について

- ・担当委員である長尾委員及び事務局から説明
- ・「ヒトの健康に悪影響を及ぼすことを示す新たな懸念はないと考えられる。」との遺伝子組換え食品等専門調査会の見解が了承され、改めて食品健康影響評価を行わないこととなった

(5) 食品安全モニターからの報告（平成21年12月分）について、12月中に報告された31件について事務局から報告

(6) 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成22年1月分）について事務局から報告

第321回 2月25日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明

農薬(3品目)	トルフェンピラド、ベンチアバリカルブイソプロピル、2, 4-D
遺伝子組換え食品等(2品目)	チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMON89034系統とトウモロコシ1507系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシNK603系統を掛け合わせた品種、THR-No. 1株を利用して生産されたL-トレオニン

(2) 各専門調査会における審議結果についての報告

- ・各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見又は意見・情報の募集に着手することを決定

企画専門調査会(1案件)	平成22年度食品安全委員会運営計画
農薬専門調査会(2品目)	TCMTB、イソキサフルトール

(3) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(2品目)	グルホシネート、スピネトラム
自ら評価	我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価(オーストラリア、メキシコ、チリ、コスタリカ、パナマ、ニカラグア、ブラジル、ハンガリー)

2. 専門調査会の運営

(1) 企画専門調査会

第33回 2月16日（火）

- ・平成22年度食品安全委員会運営計画について審議し、一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

(2) 添加物専門調査会

第82回 2月23日（火）

- ・「1-ペンテン-3-オール」及び「3-メチル-2-ブテノール」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

(3) 農薬専門調査会

第30回 確認評価第一部会 2月9日(火)

- ・「エタルフルラリン」及び「ベンフルラリン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第60回 幹事会 2月12日(金)

- ・「イソキサフルトール」、「シアゾファミド」、「ジチアノン」及び「ピリダリル」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
- ・「アシフルオルフェン」及び「ラクトフェン」については、次回以降に持ち越しとなった
- ・国民からの御意見・情報の募集期間中に、グルホシネート評価書(案)に対して寄せられた御意見について再度検討した結果、回答(案)及び評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった
- ・海外評価機関の評価を基に作成する評価書の記載について検討

第29回 確認評価第二部会 2月16日(火) ※非公開

- ・「ノルフルラゾン」及び「ピメトロジン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、幹事会に報告することを決定
- ・海外評価機関の評価を基に作成する評価書の記載に関する幹事会決定が報告された

第37回 総合評価第一部会 2月22日(月) ※非公開

- ・「カルボフラン」について調査審議し、継続審議となった
- ・海外評価機関の評価を基に作成する評価書の記載に関する幹事会決定が報告された

(4) 動物用医薬品専門調査会

第122回 2月24日(水) ※非公開

- ・「動物用医薬品(豚インフルエンザ・豚丹毒混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(フルシュア ER)」及び「豚増殖性腸炎乾燥生ワクチン(エンテリゾール イリアイティスTF、同FC、同HL、同HC)」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

(5) 器具・容器包装専門調査会

第8回 生殖発生毒性等に関するワーキンググループ 2月15日(月)

- ・ビスフェノールAの評価に関する各国の動向について、事務局から説明が行われた。当ワーキンググループとしては、これまでに得られている知見から、現時点における評価書(案)を取りまとめて、中間的な評価という位置づけも視野に公表していくこととなった
- ・ビスフェノールAの評価書(案)について、事務局から説明が行われ、次回ワーキンググループまでに記載内容を精査し、修正、追記等を行った上で再度審議することとなった

(6) 微生物・ウイルス専門調査会

第10回 2月23日(火)

- ・ Dr. Jeffrey M. Farber (ジェフリー・ファーバー) カナダ保健省製品・食品部門微生物ハザード課課長から、カナダにおける食品中の微生物に関するリスク評価及びリスク管理について、鶏卵中のサルモネラ・エンテリティディスのリスク評価の事例等を交えて講演が行われた後、質疑応答が行われた

(7) プリオン専門調査会

第63回 2月10日(水)

＜我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価＞

- ・ 各国政府に送付した質問書に対する回答及び資料整備の進捗状況について、事務局より説明
- ・ 評価結果(案)(オーストラリア、メキシコ、チリ、コスタリカ、パナマ、ニカラグア、ブラジル、ハンガリー)に関する意見交換会の概要について事務局から説明
- ・ 同評価結果(案)に対する国民からの御意見・情報に対する回答案について審議を行い、一部修正の上、評価書(案)と共に食品安全委員会へ報告することとなった
- ・ バヌアツ及びアルゼンチンの評価書(案)たたき台について審議

＜その他＞

- ・ カナダ及び米国における牛肉の対日輸出認定施設等の現地査察結果について厚生労働省及び農林水産省から報告
- ・ BSE対策に関する調査結果について厚生労働省から報告

(8) 遺伝子組換え食品等専門調査会

第79回 2月8日(月) ※非公開

- ・ 「除草剤グリホサート耐性トウモロコシNK603系統、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMON810系統及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON863系統」を用いた90日間反復投与毒性試験に関する資料等について検討を行い、見解を食品安全委員会に報告することとなった
- ・ 「チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシBt11系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR162系統とトウモロコシ1507系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシGA21系統からなる組合せのすべての掛け合わせ品種(既に安全性評価が終了した4品種は除く。)」について調査審議し、評価書(案)を食品安全委員会に報告することを決定
- ・ 「耐熱性 α -アミラーゼ産生トウモロコシ3272系統(食品・飼料)」について調査審議し、食品については指摘内容を確認の上、評価書(案)を了承することとなった

(9) 新開発食品専門調査会

第65回 2月10日(水) ※非公開

- ・ 「リプレS」、「トリグリティー」及び「ミドルケア粉末スティック」について調査審議し、継続審議となった

3. 意見交換会等の開催

(1) 意見交換会

食品のリスクを考えるワークショップ（群馬）～気になる農薬～

2月3日（水）＜群馬県前橋市＞

- ・群馬県との共催により開催
- ・「食品の安全とリスク認知」では、当ワークショップの目的と人のリスクの感じ方について説明
- ・「農薬の基礎知識」について説明を受けたあと、グループワーク1では、参加者がグループに分かれ農薬について気づいたこと、感じたことなどを議論し整理
- ・グループで討議したことを発表し、それに基づいて食品安全委員会と群馬県の行政側と参加者で率直な意見交換を実施
- ・グループワークの際には、群馬県で開催した「食品の安全性に関するリスクコミュニケーション育成講座」の受講者に、各グループの世話役として参加していただき、育成講座で学んでいただいたファシリテーションを実践

食品のリスクを考えるワークショップ（和歌山）

みんなで考えよう！「食の安全と安心」－どう思う？食品添加物－

2月19日（金）＜和歌山県橋本市＞

- ・和歌山県との共催により開催
- ・「食品の安全とリスク認知」では、当ワークショップの目的と人のリスクの感じ方について説明
- ・DVD『気になる食品添加物』を観たあと、グループワーク1では、参加者がグループに分かれ食品添加物について気づいたこと、感じたことなどを議論し整理
- ・グループで話し合ったことを発表し、それに基づいて食品安全委員会と和歌山県の行政側と参加者で意見交換を実施
- ・グループワーク2では、ワークショップのふりかえりとして、食品添加物について、一番印象に残ったことなどをグループで話し合いを行った
- ・また、グループワークの際には、和歌山県で開催した「食品の安全性に関するリスクコミュニケーション育成講座」の受講者に、各グループの世話役として参加していただき、育成講座で学んでいただいたファシリテーションを実践

食品安全委員会セミナー「食品における微生物のリスク評価について」

2月26日（金）＜東京都千代田区＞

- ・食品安全委員会の主催で開催し、ジェフリー・ファーバー氏（カナダ保健省健康製品及び食品部門微生物ハザード課課長、国際食品微生物規格委員会メンバー）からの「微生物が関与する食品安全について－カナダ保健省の取組－」と題した講演、渡邊治雄氏（食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会座長、国立感染症研究所副所長）からの「微生物・ウイルス専門調査会の取組状況」と題した講演の後、会場との質疑応答を実施

(2) 食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座（ファシリテーター型）

2月5日（金）＜富山県富山市＞

2月10日（水）＜静岡県静岡市＞

- ・ 午前は、内閣府食品安全委員会事務局が制作した、リスク分析と食品安全委員会の役割について説明したDVD上映と、ファシリテーションの基礎知識に関する講義の後、参加者がファシリテーションの基本的なスキルのいくつか（傾聴など）について、実習を行った
- ・ 午後は、参加者がグループに分かれ、アイスブレイクをした後、ワークショップのいくつかの手法を体験

(3) 食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座（インタープリター型）

2月23日（火）～24日（水）＜高知県高知市＞

- ・ 1日目は、講師が、食品安全委員会の概要、インタープリターに期待すること、リスクのとらえ方、リスク評価の実際（BSE）を中心に説明した後、受講者は、当委員会が用意したスライド資料をたたき台にして、有効な資料に仕上げるには何が必要かなどを討議を実施
- ・ 2日目は、講師が、当委員会が行っている食品のリスク評価（農薬）を説明した後、演習の一環として行われる小規模意見交換会「アフタヌーンカフェ」の効果的な進め方、設営準備の実際等を経験し、実際に、受講者が役割分担しながら、アフタヌーンカフェを開催

(4) 講師等派遣

- ・ 地方公共団体企画や各種団体企画の講演会等へ委員が講師として参加した

月 日	講演会名	対応委員
2月27日	千里ライフサイエンス市民公開講座第56回	廣瀬委員